

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連  (北海道)	良くなっている	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・4月の年間受注状況が前年比で3%良化している。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・4月の利用人数は、26日現在で前年比128.2%と前年から大きく上向いている。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・観光シーズンがようやくスタートしたことに加えて、大規模な公共工事が始まったことで、旅客、車両ともに輸送量が大きく増加している。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・株高や金利低下、公共工事増で客の気持ちが上向いている。
	やや良くなっている	商店街（代表者）	単価の動き	・高額品の動きが以前より良くなっている。ただし、来客数や販売量、客単価については、明るいムードは感じるものの、実態はいまだ厳しい。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・景気回復の実感はまだない。ただ、客の気分が高揚している様子がうかがえ、期待感は十分にある。北海道における外国人観光客は順調に推移しており、中国本土からの観光客はいまだ低調だが、前年のタイ直行便の就航により、南アジアからの観光客が増えており、中国本土の落ち込み分を徐々にばん回している。
		百貨店（売場主任）	販売量の動き	・4月の全店の売上は、7日、14日と荒天で苦戦したものの、前年並みで推移している。買上客数も前年を上回っている。
		百貨店（販売促進担当）	単価の動き	・景気回復の報道が連日なされていることで、市内の消費に対する気運もかなり高まってきている。特に、特選ブランドと呼ばれる海外有名ブランドの売上が好調で、全体の数字の押し上げに寄与している。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・気温低下という天候要因がありながら、売上はほぼ前年並みで推移している。特に月末にかけては、最高気温の前年差がマイナス10度以上と寒い日が続いているものの、消費マインドは悪くない。
		スーパー（店長）	単価の動き	・プチゼいたく的に自家需要での高単価品の動きが前月と同様に活発である。衣食住すべてにおいて同様の動きとなっている。ブランド品、フォーマル、和牛、まぐろ、輸入果実、化粧品などが挙げられる。
		スーパー（店長）	単価の動き	・来客数はそれほど増えていないが、高い商品から売れ始めている。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・4月に入ってから、アルコールの売上が持ち直してきており、家庭内消費の持ち直しがうかがえる。
		衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・春物衣料に対して客の購買意欲が動いている。一方で、円安の影響も出てきている。また、電力料金の値上げや消費税増税を控えて、家計に圧迫感が感じられる。
		自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・商品の買上点数が増えている。特に洗車用品が前年の1.3倍と伸びており、車にお金をかける流れが出てきている。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・観光シーズンに入り、年配の夫婦や家族連れの観光客が目立っている。昼夜とも満席の日もあり、来客数は前年比で2けたの増加となった。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・4月に入り、温暖な気候となったことで来客数が伸びている。
観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・各週末の個人予約が好調に推移している。		
住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・消費税増税前に住宅を購入しようという動きがみられる。		
住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・販売量は堅調に推移している。現在、分譲マンション市場全体の在庫はとて最少なく、売り出すとすぐに完売してしまうような状況である。客がマンションの購入を競っているような状態である。		
変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・肌寒い日が続き、アパレル関連の動きが鈍化気味となっている。	
	商店街（代表者）	それ以外	・トレンドがはっきりしていることで商品がそろっているものの、天候の変化に左右されており、全店的に動きが安定していない。	
	商店街（代表者）	お客様の様子	・新政権の経済対策により景気が良くなるという雰囲気はあるのだが、客からは今一つという声が聞こえる。	

商店街（代表者）	来客数の動き	・様々なメディア等で景気がわずかながら上向きと発表されているが、当地域では停滞ムードが漂っている。一部の企業では給料のベースアップの発表があったが、当地域では農業を基幹とする中小企業がメインであるため、政策効果の見えづらい状態が続いている。その反面、円安の影響として、燃料代等のアップにより生活費が圧迫されることで、さらに低価格のものを買い求める傾向とともに極力買物を控えようとする動きが目立つ。
一般小売店〔土産〕（経営者）	単価の動き	・寒さが続いていることで、春の訪れを迎える気にならないためか、観光客の出足は鈍い。また、石油等の値上がりや電力料金値上げのニュース等の影響で上向くはずの消費も冷えようとしている。ただ、当社の売上は、東日本大震災の影響でこの2年で相当落ちたが、今年は震災前の96%程度までは戻ってきている。
一般小売店〔酒〕（経営者）	単価の動き	・販売量はそこそこで推移しているが、より商品単価の低い商品に移行しようとする動きがみられる。例えば、焼酎であれば大容量の4リットルが売れたり、お茶は2リットルのペットボトルの動きが良いなど、得意先もそういうことを気にしているようで、なかなか売上が伸びづらくなっている。
百貨店（売場主任）	販売量の動き	・2～3月はラグジュアリーブランドの値上げが集中したことで駆け込み的に前倒し購入があった。その後は回復傾向にあるものの、冬型気候の継続などで季節が変わりきれていないため、4月のボリュームゾーンの購買動向が遅れている。
百貨店（役員）	販売量の動き	・今月のホームセンター部門はここ数か月で一番悪かった。天候不順が最大の要因とは思いますが、新政権の経済対策の効果が末端消費につながっていないことを痛切に感じる。
スーパー（店長）	販売量の動き	・販売量の動きをみると、1～3月までは前年割れではあったものの、右肩上がりでも推移していた。しかし、今月は日曜日が1日少ないこともあり、足踏み状態である。
スーパー（企画担当）	来客数の動き	・新政権の経済対策の影響もあり、消費環境のムードは明るくなってきているが、日々の競合店との価格競争は激しさを増している。また、来客数も相変わらず伸び悩んでおり、足元の景況感是不透明感をぬくえない状況である。
スーパー（役員）	来客数の動き	・4月は前年よりも日曜日が1日少ないことに加え、初旬に台風並みの低気圧が発生したことで、来客数が前年比で約3%低下した。他業種では、良い業種、業態が増加している状況も聞かれるが、当社はまだ上昇傾向には至っていない。一方、客単価については前年比で1%低下しているが、前月と比べてそう変化はみられない。
スーパー（役員）	お客様の様子	・年金支給日や月末の給料日の後など、お金のある時にまとめ買いをする傾向が継続している。景気が回復するようには感じられない。
衣料品専門店（店長）	それ以外	・商店街関係の集まりで話を聞いても、客からの話でも、あまり芳しい話は聞いていない。
衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・景気が回復しているとマスコミ等で報道されているが、給与面等は変わらないため、実際には変化がみられない。株高等で収入が増えている人もいるが一部である。
家電量販店（店員）	単価の動き	・独り立ち用の家電需要について、前年と比較すると客単価が落ち込んでいる。内容も必要最低限のものにとどまっている。
家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・新政権の経済対策の効果がいまだに家電需要に反映されていない。特にテレビについては、回復がほとんど見込めないほど、落ち込みが大きい。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・2～4月にかけて販売量は安定しており、大体同じ程度で推移しているが、そこまで景気が上向きになったとは正直思えない。
乗用車販売店（営業担当）	競争相手の様子	・テレビや新聞で取り上げられているような景気上向きの報道とは異なり、当地区では同業他社をみても、受注量は上向きになっていない。
その他専門店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・買い控えに加えて、悪天候の影響がみられる。特に高齢者が中心の店舗であるため、少しでも寒かったり、雨模様だったりすると如実に影響する。購買意欲も減退しているようだ。

	その他専門店 〔ガソリンスタ ンド〕（経営 者）	販売量の動き	・車のハイブリッド化により燃費が向上しており、販 売量が減少している。	
	高級レストラン （スタッフ）	販売量の動き	・ゴールデンウィーク前後は毎年良くないが、今年も 昼夜とも例年並みであった。ただし、数字には出てき ていないが、女性客の服装が明るくなっていること や、男性客の明るい話題が増えていることなどから、 景況感は上向いているようだ。夕食が低単価の飲食店 では早い時間のにぎわいが戻りつつある。	
	スナック（経営 者）	来客数の動き	・特別、前年と変わらないが、街中に客が少しづつ多 くなった印象がある。	
	観光型ホテル （経営者）	来客数の動き	・引き続き集客に弱さがあり、3か月前と比較して景 気が上向いている実感はない。	
	旅行代理店（従 業員）	販売量の動き	・前々年の11月より良い状況が続いている。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・4月になって暖かくなり、タクシーの利用客が3月 までの雪のある時に比べて極端に減っている。4月の タクシーの売上は前年と比べてもほぼ同じである。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・周囲の状況からは上向き感が感じられるが、事業そ のものについては具体的に持ち直しの兆候はまだみら れず、需要の安定しない状況が続いている。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・観光関係も含めて、注文数、問い合わせ件数ともほ ぼ前年並みである。	
	通信会社（企画 担当）	お客様の様子	・大幅な割引を行っても、前年同時期ほどの反応が客 からみられない。	
やや悪く なっている	百貨店（売場主 任）	お客様の様子	・春物については、コート関連やジャケット関連の動 きはあるものの、単品での動きにとどまっている。一 方、婦人関連では、トレンドであるパンツが好調に動 いている。高額な宝飾品、絵画等には動きがみられな い。	
	コンビニ（エリ ア担当）	販売量の動き	・当地の主要産業である水産加工において、ロシアと の問題が絡んできており、今後出漁できるか分からな いため、来客数が減少してきている。	
	旅行代理店（従 業員）	お客様の様子	・新政権の経済対策の効果に期待していたが、1次産 業、特に農業への依存度が高い当地ではTPP問題が 大きく影響しており、政治不安をとまなう先行きへの 不安感がまん延している。航空機も低価格運賃中心の 販売となってきており、客単価の低下がみられる。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・タクシーの売上は天候に左右されるため、雪の影響 が大きかった3か月前と比較して売上が落ち込むのが 普通だが、今年は15.4%もの落ち込みがあることか ら、やや悪くなっている。	
	美容室（経営 者）	来客数の動き	・低温や多くの残雪、そして晴れの日が少ないといっ た悪い気象状況が続いたため、来客数が極端に少ない 状況になっている。	
悪く なっている	タクシー運転手	販売量の動き	・冬季の売上の増加は大雪という季節要因によるもの で、景気の押し上げによるものではなかった。春を迎 えると同時に、前年を下回る状態となった。	
企業 動向 関連	良くなっ ている	通信業（営業担 当）	受注量や販売量 の動き	・平成24年度第4四半期後半より、販売量、引き合い 件数が増加傾向を示している。また、それらの規模も 大きくなっている。
(北海道)	やや良くなっ ている	食料品製造業 （経営者）	それ以外	・実体経済はまだまだデフレ不況から脱していない が、新政権の経済対策の効果で何となく世の中が浮わ っている。
		建設業（従業 員）	受注価格や販売 価格の動き	・円安や電気料金値上げの動きにともない、建設資材 の値上げの動きがみられる。また、労務者不足から労 務単価も上がっており、総じて建設工事費は上昇傾向 にある。
		輸送業（支店 長）	受注量や販売量 の動き	・景況感については北上するまでのタイムラグがある が、関東圏向け建築物の輸送が動いている。また、 北上便の輸送比率が高まりつつあり、引き合いも出だ している。
		コピーサービス 業（従業員）	受注量や販売量 の動き	・購買力は上がってきているが、慎重なのは変わらない。 価格競争をさせ、少しでも価格を落とす努力を怠ら ない。
		その他非製造業 〔鋼材卸売〕 （役員）	受注量や販売量 の動き	・商品の販売量が徐々に増えてきている。また、補助 金絡みの設備関連の案件が活発化している。

変わらない	食料品製造業 (団体役員)	受注量や販売量 の動き	・公共事業関連では活況がみられるものの、食品製造業では円安の影響により原料価格や資材価格が上昇している。一方で、末端販売店、スーパー、コンビニ等での価格競争の強まりもあり、中小製造業では販売価格への転嫁は困難な状況である。	
	食料品製造業 (役員)	受注量や販売量 の動き	・身の回りの景気は、3か月前と比べてやや悪い状況のまま変わらず推移している。	
	家具製造業(経営者)	受注量や販売量 の動き	・円安株高により景気は回復基調にある。しかし、材料費や光熱費などコストアップが先行しており、家具インテリア市場はまだまだ活性化しているとは言い難い。	
	金融業(企画担当)	それ以外	・設備投資は医療福祉施設の新増設やメガソーラーの建設で底堅い。観光関連はLCCの就航が追い風となっている。しかし、円安による原材料価格や燃料費の上昇が企業収益を圧迫している。また、人手不足で建設工期の遅れもみられる。	
	司法書士	取引先の様子	・土地や建物の売買等の取引において、現時点では大きな変動がなく、今後の建物の建築に期待しているところである。	
	司法書士	取引先の様子	・雪解けとともに土地の取引情報が増えたが、まだまだ打診の域を超えない状況である。	
	その他サービス業[ソフトウェア開発](経営者)	受注量や販売量 の動き	・年度が替わっても、今のところ特に仕事が増えている感じはない。今年度は設備投資を増やすという話も全く聞こえてこない。	
やや悪くなっている	その他サービス業[建設機械リース](支店長)	取引先の様子	・地方都市では円安のマイナス部分のみが反映されている。最も深刻なのは燃料費の高騰で円安のプラス部分を補っていないことである。	
	司法書士	取引先の様子	・建物の新築や、その前提となる土地の売買が例年と比べて少ない。	
悪くなっている	-	-	-	
雇用 関連	良く なっている			
(北海道)	やや良く なっている	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・正社員の新規求人が2割ほど増えている。パート求人については横ばいで推移しており、正社員求人の増加が際立っている。最近の景気回復をみて、守りから攻めの経営に変化しようとしているようにも見える。
		求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・3か月前と比べると求人広告件数が1割以上増加している。特にサービス業、建設関連産業の伸びが目立っている。
		求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・景気が良くなっている実感はないが、求人数は着実に増えており、前年比で1~2割の伸びとなっている。求人数の増加にともない、応募数が少なくなっており、企業活動の足かせとなる懸念がある。
		求人情報誌製作 会社(編集者)	雇用形態の様子	・求人件数はゆっくりと伸び続けている。3~4月は人材の入替わり時期であるが、それだけではなく、増員募集をする企業が多くみられた。なかでも正社員求人が増えたことは、景気の先行きが上向くと読んでいるためとみられる。業種では、建設業や運輸業、金融・保険業、介護福祉などが堅調で、個人消費関連も順調に推移している。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・北海道新幹線開業を控えて、ホテルの改修や新設の計画が進んでおり、観光産業からの求人が増加している。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・新規求人数は5.1%増加し、38か月連続で前年を上回った。月間有効求人数も9.6%増加し、38か月連続で前年を上回った。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・建設業では技術者や営業、作業員の小口の求人が積み重なることで、求人件数が増加傾向にあり、景気回復の兆しとも取れる動きがみられる。
変わらない	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・年度の替わるタイミングで一時的に求人は増えたが、退職者も増えているため、全体ではプラスマイナスゼロである。	
	職業安定所(職員)	雇用形態の様子	・3月の新規求人数は前年を1.8%上回った。新規求職者件数は前年を10.9%下回った。月間有効求人倍率は0.77倍となり、前年の0.68倍を0.09ポイント上回った。しかし、新規求人数のうち、正社員求人の占める割合は42.6%であり、求人者と求職者の間における職種や労働条件のミスマッチも少なくない。	

やや悪く なっている	-	-	-
悪く なっている	-	-	-